

岩ヶ淵地区防災計画



岩ヶ淵自主防災会
作成：2024年（令和6年）

目次

序 章	はじめに	・・・・・・・・・・	1
第 1 節	地区防災計画策定にいたる経緯	・・・・・・	1
第 2 節	計画の目標と基本的な考え方	・・・・・・	3
第 1 章	岩ヶ淵地区の特性と災害リスク	・・・・・・・・・・	4
第 1 節	岩ヶ淵地区の特性	・・・・・・	4
第 2 節	災害リスク	・・・・・・	7
第 3 節	緊急時の避難について	・・・・・・	12
第 2 章	岩ヶ淵地区の課題	・・・・・・・・・・	15
第 3 章	岩ヶ淵地区で進める防災対策	・・・・・・・・・・	16
第 1 節	防災の基本的な考え方	・・・・・・	16
第 2 節	災害対策に向けた活動の役割分担	・・・・・・	16
第 3 節	ひとりひとりが自ら取り組むこと（自助）	・・・・・・	17
第 4 節	地域や身近にいる人どうしが一緒に取り組むこと（共助）	・・・・・・	19
第 5 節	岩ヶ淵地区で活用できる事業（公助）	・・・・・・	19
終章	さいごに	・・・・・・・・・・	20

序章 はじめに

第1節 地区防災計画策定にいたる経緯

岩ヶ淵自主防災会は、高知市の要請により2015年（平成27年）発足し、岩ヶ淵公園内への防災倉庫の設置や年1回の消火訓練等を行なってきました。こうした活動の中、2019（令和元）年に、地区住民より「具体的な地区防災に力を入れてほしい」との要望を受けました。その理由として、岩ヶ淵は近隣地区へのアクセスが米田橋と細い市道に限られ、**災害時に地区外へ避難することが困難となる可能性がある**ことが挙げられます。

そこで、2020（令和2）年より諸団体と連携し、岩ヶ淵地区の災害リスクに関する学習会やワークショップなどを開催してきました（表1）。

今後、**さらに地区の防災力を高め、岩ヶ淵地区の人々が安心して暮らすことができ、持続的な地域として未来を見据えることができるよう、「岩ヶ淵地区防災計画」を策定**しました。

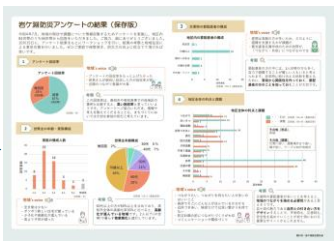
Check! 「地区防災計画」とは？

「地区防災計画」とは、一定の地域に住む住民同士で地域の人命・財産を守るための助け合い(共助)について、**自発的な防災活動計画を策定すること**です。地域住民が主体的に提案を行い、多様で固有の地域特性を計画に反映していきます。

最初から完璧なものを作成する必要はありません。住民同士で街歩き（散策）をしてみることも、地区防災計画の取り組みです。簡単な取り組みから地区防災についての理解を深めていきましょう。

表1 岩ヶ淵地区のこれまでの防災活動

2015	岩ヶ淵自主防災会発足
2016	岩ヶ淵公園内に 防災倉庫を設置 、災害時用備品を整備（補助金を活用）
2017	避難所（高知商業）までの ルート確認 （徒歩）
2018	消火訓練・煙避難体験（協力：高知市消防局）
2019	消火訓練・心肺蘇生訓練（協力：高知市消防局） 100歳体操グループより「具体的な地区防災に力を入れて欲しい」と要望を受ける。
2020	岩ヶ淵地区防災計画策定を見据え、「高知市地域防災推進課」「高知高専北山研究室」と協働で調査や学習会を開始。

2020	防災学習会 1 (11/8) (高知市地域防災推進課・県政出前講座を活用) 治水の歴史や地区の形成過程、近年の風水害・防災対策について学習しました。	  出典：国土地理院 昭和62年 平成18年
2021	防災学習会 2 (11/14) (高知県南海トラフ地震対策課・河川課・土砂災害対策課出前講座を活用) 岩ヶ淵地区の内容に特化した説明にて行政・住民共に理解を深めました。	
2022	岩ヶ淵地区の全世帯を対象に防災アンケートを実施 地域住民の基礎情報や災害に対する備えの状況等を把握する 後日、結果冊子にまとめ全世帯に配布	
	防災まち点検・防災ワークショップを実施 (補助金を活用) 防災まち点検/ワークショップ (1/15) (協力：高知市地域防災推進課・旭町地域包括支援センター・高知高専北山研究室) 地域の危険場所を把握し、今後の防災活動について話し合う。 結果を後日全世帯に配布。 高知高専北山研究室による成果物の寄贈 研究論文+提案パネル+地区模型	
2023	避難行動要支援者対策の実施 避難時に支援の必要がある方のお宅を訪問し、支援内容や避難先の確認を行いました。	
	集会テント等の整備 (補助金を活用) 炊き出し訓練 (10/21) (協力：高知高専北山研究室・高知大学防災すけっと隊 上本宮町山手町内会等) 多くの方々のご協力により、課題の一つであった「世代を超えた交流」が実現しました。	  
2024	鏡ダム勉強会 高知市からの依頼により実施 (協力：高知土木事務所鏡ダム管理事務局)	
	岩ヶ淵地区防災計画素案作成 自主防災会・100歳体操・協力機関との話し合いを経て素案を作成しました。 (協力：高知高専北山研究室・高知市地域防災推進課)	

第2節 計画の目標と基本的な考え方

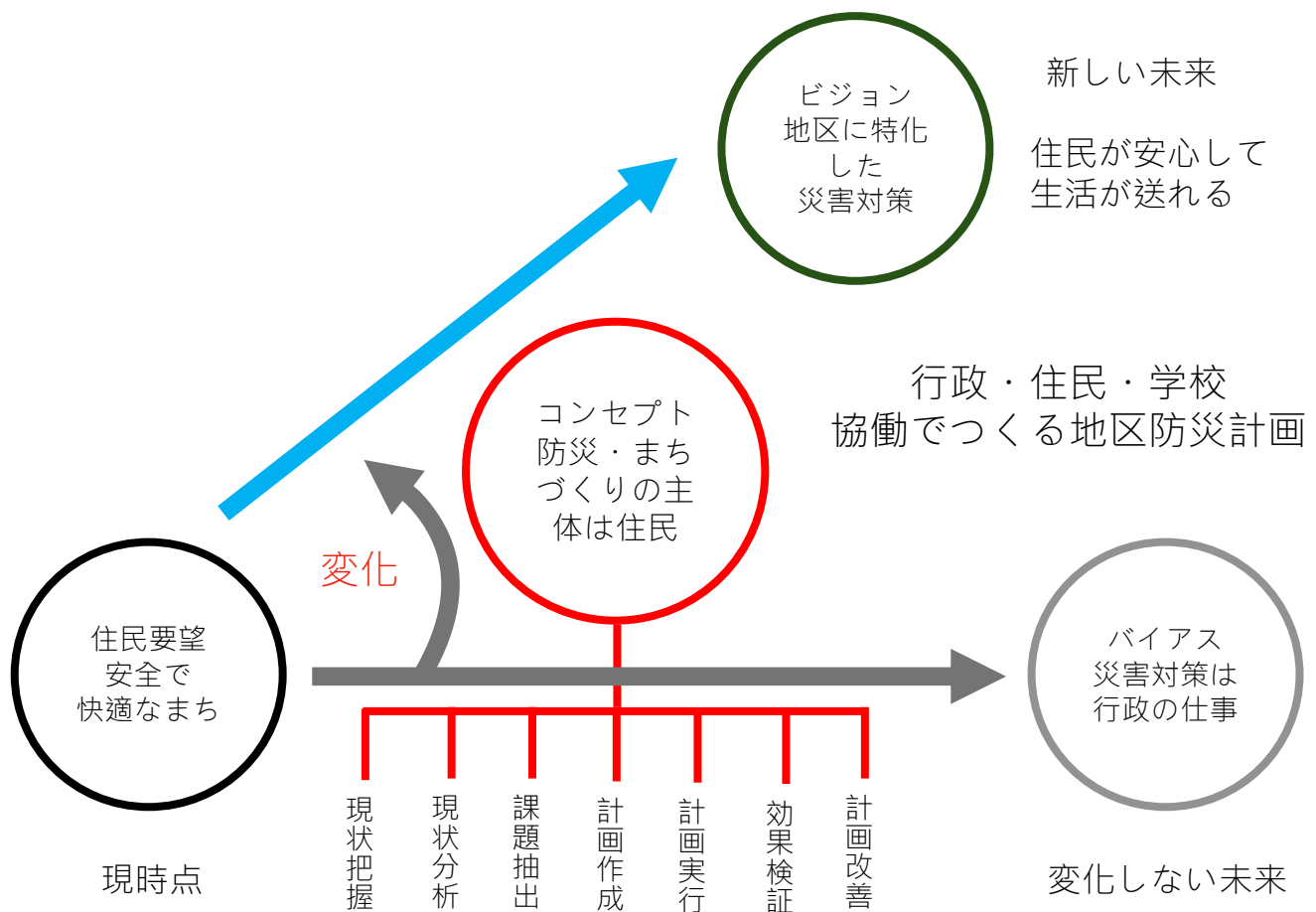
岩ヶ淵地区防災計画に基づく活動を通して目指す目標として次の3つがあります。

- ・ 住民の道標となる地区防災計画とし、**持続的な防災活動**を目指します。
- ・ 防災活動を通じて、災害時にも**協力し合える関係づくり**を目指します。
- ・ 地区特性を行政と共有し、さらなる**地区防災の推進**を図ります。

岩ヶ淵地区防災計画のコンセプト

防災・まちづくりの主体は住民

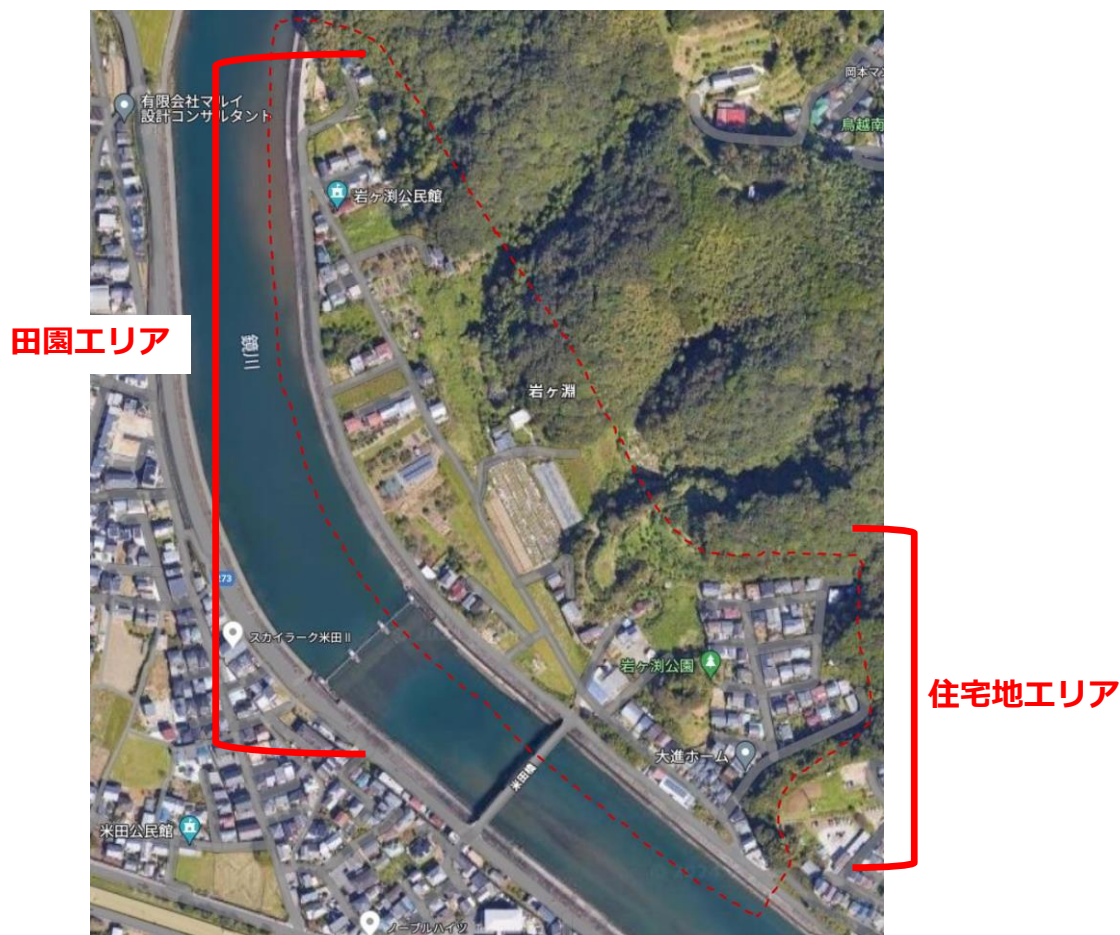
官・民・学が協働し、地区の特性や課題をしっかりと理解し共有した上で、岩ヶ淵地区の災害対策を検討し、一つ一つ解決に向けて行動していくことで、岩ヶ淵地区の暮らしを安心かつ豊かなものにしていきます。



第1章 岩ヶ淵地区の特性と災害リスク

第1節 岩ヶ淵地区の特性

岩ヶ淵地区は高知市西部に位置し、中心部に近い立地でありながらも西側は鏡川、東側には山が迫る**自然豊かな地域**です。住まいの場は、**田畑の間に家々が点在する田園エリア**と、昭和後期の**宅地造成によって形成された住宅地エリア**とが隣り合う2つの性格を持ち合わせています。



Check! 「田園エリア」と「住宅地エリア」の違いをみてみよう

【田園エリア】

岩ヶ淵地区の田園エリアは、都市計画上是「市街化調整区域」といい、市街化を抑制するため、新たな宅地の開発は基本的にはできない地域です。

【住宅地エリア】

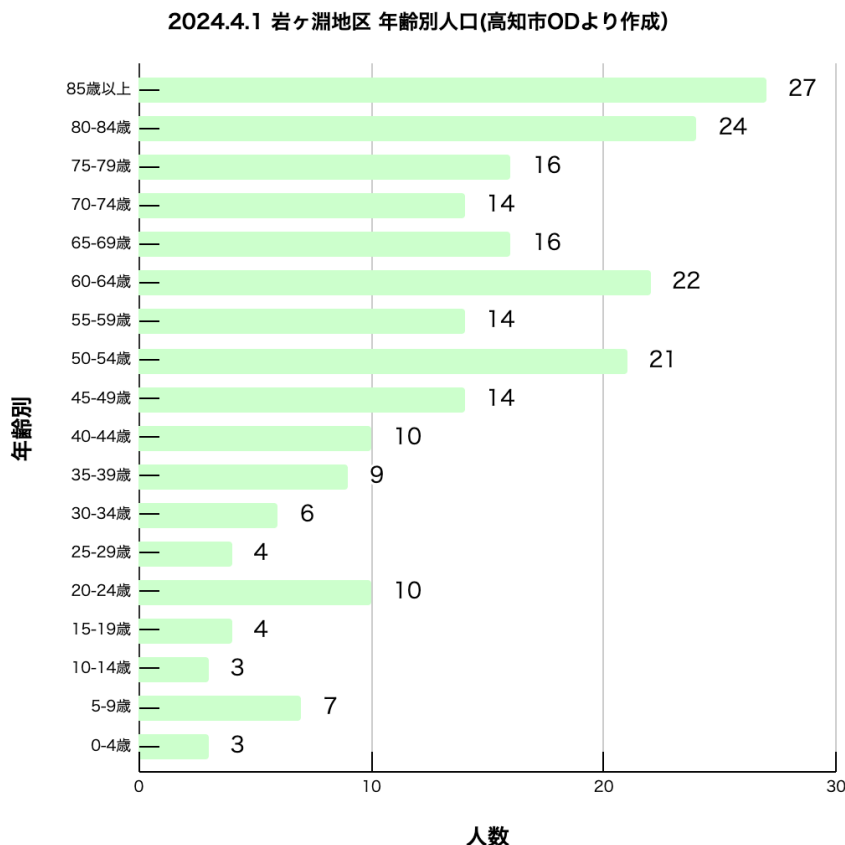
住宅地エリアは、都市計画上是「市街化区域」といい、市街地として積極的に整備する地域です。

表2 岩ヶ淵地区のインフラ

	区域	上水	下水	電気	ガス	電話回線
田園エリア	市街化調整区域	地下水を利用	未整備のため合併浄化槽もしくは汲み取り式	利用可能	LPガスを契約して設置	光ファイバー網・携帯電話利用可能
住宅地エリア	市街化区域	上水道				

岩ヶ淵地区の人口構成

令和6年時点の岩ヶ淵地区の人口は224人、121世帯が暮らしています。住民の4割が65歳以上の高齢者であり、高齢者が占める割合が高い地区です。また、地区内にはアパートが一軒あるため、そこに住む人の入れ替わりはありますが、新たにこの地区に移り住む世帯は3年に1世帯あるかの程度で、住民の入れ替わりは少ない地域でもあります。



Check!岩ヶ淵地区の未来を考える

2024年4月1日時点の高知県全体と岩ヶ淵地区の高齢化率を比較してみましょう。

高知県全体：65歳以上割合**36.6%**

高知市全体：65歳以上割合**31.4%**

岩ヶ淵地区：65歳以上割合**43%**

このデータから、今後の推移を予測すると、5年後には65歳以上の割合が50%を超え住民の半数が高齢者となり、10年後には65歳以上の割合が60%近くになる可能性が高いものと考えられます。

また、将来を担う若い世帯が少ない地区でもあり、宅地や道路、田畑、水路などの居住環境の維持管理に課題がみられます。

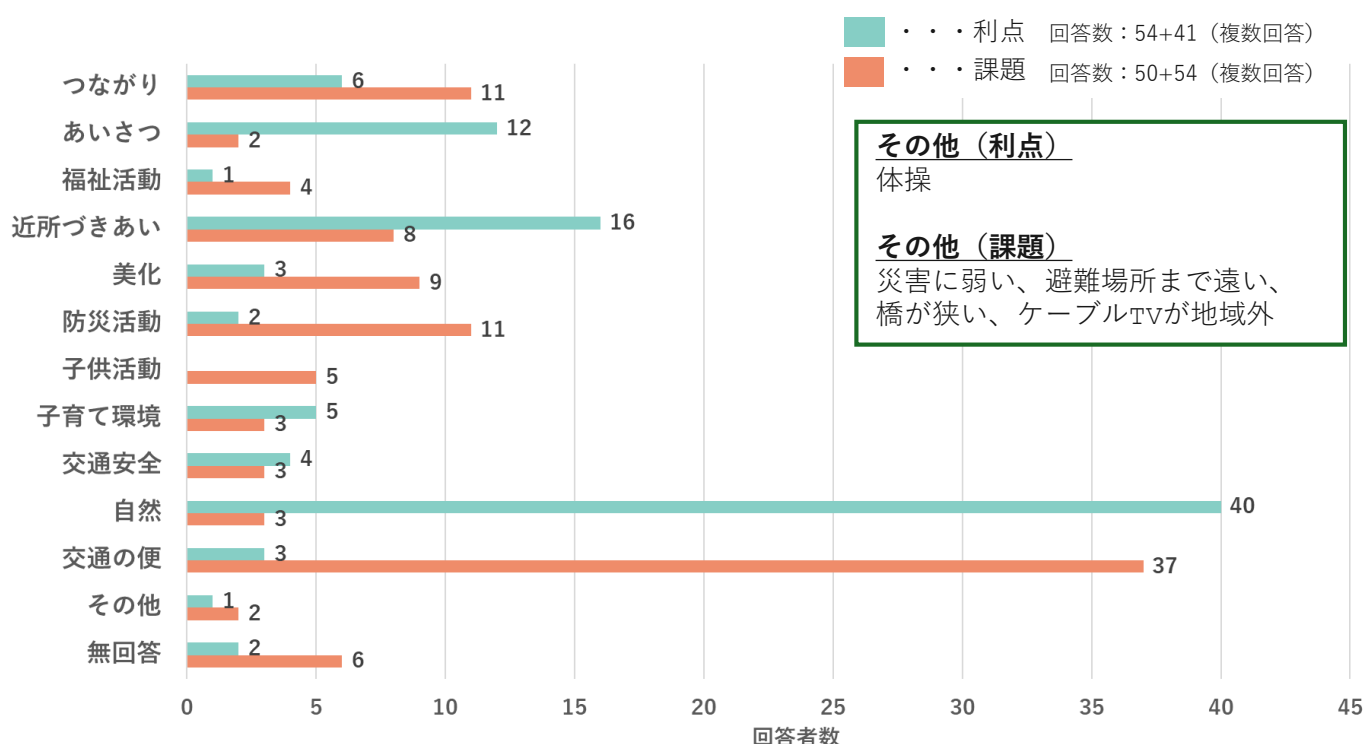
岩ヶ淵地区の魅力と課題

令和4年度に行った住民アンケートで岩ヶ淵地区の魅力（利点）と課題を聞いてみました。すると、多くの方が「自然」、「近所付き合い」、「あいさつ」が魅力であると回答しました。川と山がすぐ近くにあり、高知市中心部でありながらも豊かな自然があることは岩ヶ淵地区の大きな財産と言えます。

一方、課題については、「交通の便」、「防災活動」、「つながり」と答えた人が多くいました。公共交通までの距離が遠い点は地域での解決は難しいですが、防災活動・つながりについては、災害への備えとして重要な視点と考えられます。

こうした課題から、令和5年には世代を超えた交流を目的の一つとした炊き出し訓練も行いました。今後も継続的活動が必要とされます。

住民アンケートによる地区全体の魅力と課題（令和4年度実施）



交流に対する自由記述

- ・ 地域との交流会を行いたい。
- ・ もう少し近所間で交流等があればいい。
- ・ 町内で助け合える体制になってほしい。
- ・ 普段から近所同士声を掛け合ってお互いに手助け出来る所があれば手を貸して、明るい岩ヶ淵であればいいと思います。

防災に対する自由記述

- ・ 安全に避難できる避難路を確保したい。
- ・ 避難所の確保が必要では。
- ・ 岩ヶ淵はどこに避難したらいいかわからないし、年寄りもいるので動くのはかえって、危険かなと思います。でも日頃から意識していくことは大切だと思っています。

第2節 災害リスク

地震

岩ヶ淵地区全体に**震度6強の揺れが発生する**と予測されています。揺れの継続時間は2.5分～3分続くとされています。津波の影響はないと考えられています。昭和56年6月に耐震基準が強化され、それ以前に建てられた家は耐震補強を行う必要があります。

Check! 震度6強の揺れとは？

- ❖ はわないと動くことができない、飛ばされることもあります。
- ❖ 固定していない家具のほとんどが移動し倒れるものが多くなります。
- ❖ 耐震性の低い木造建物は、傾いたり、倒れるものが多くなります。
- ❖ 大きな地割れ、大規模な地滑りや山の崩壊が発生することもあります。



家具や人も転倒の危険



建物の被害



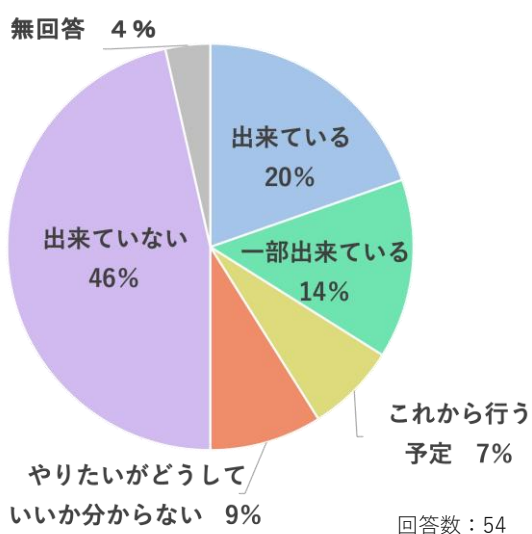
地震による土砂災害

出典：高知県南海トラフ地震に備えちよき、令和5年3月一部改訂

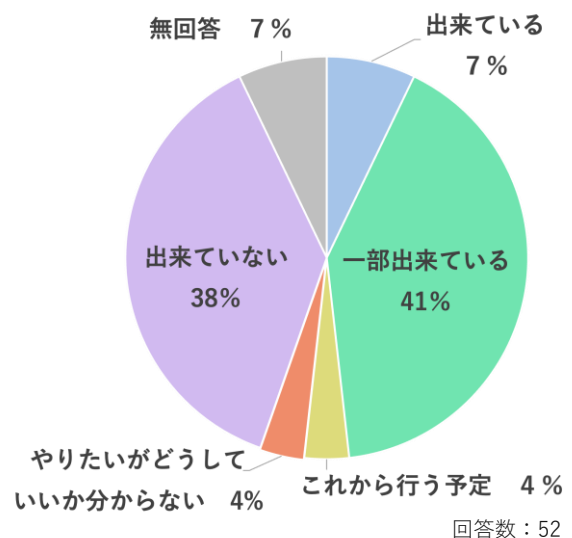
住民アンケートによる岩ヶ淵地区の地震対策状況（令和4年度実施）

令和4年度の住民アンケートでは、自宅の耐震化ができていない、家具の転倒対策ができていない世帯がそれぞれ約半数ありました。自分や家族の命を守るためにはまず家の安全性が第一です。

■ 自宅の耐震化



■ 自宅の家具転倒対策



▶ 高知市では旧耐震基準の家屋に対する耐震対策の補助金、家具の転倒防止の支援も行っています。

- ❖ 住宅の耐震化に関するご相談は、建築指導課（TEL：823-9454）
- ❖ 家具等の転倒防止対策に関するご相談は、地域防災推進課（TEL：823-9040）

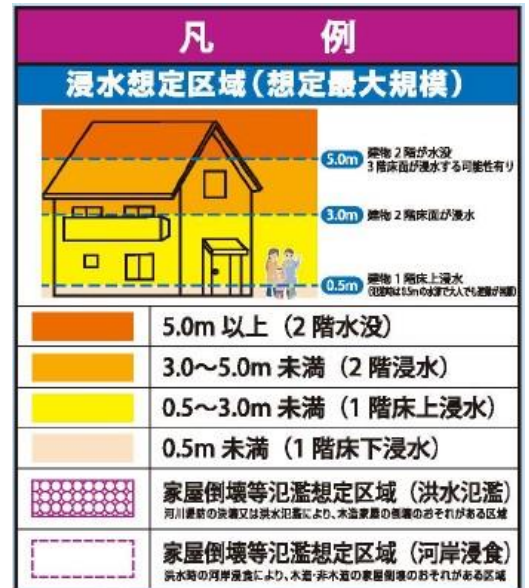
風水害

岩ヶ淵地区では昭和50年、51年の豪雨により鏡川が氾濫し、住宅が流されたという記録が残っています。その後、堤防工事が行われましたが、川の流れによる護岸の侵食によって補修工事が行われています。

田園エリアのほとんどは「洪水浸水想定区域」・「家屋倒壊等氾濫想定区域」に指定され、豪雨災害に対する警戒が必要です。

住宅地エリアを除く田園エリアは、浸水・洪水氾濫・河岸侵食の恐れがあり、**避難経路が絶たれる可能性**があります。また、鏡川の水位上昇により地区から鏡川へ排水ができなくなり**内水氾濫を起こす危険性**もあります。

鏡川想定最大規模・家屋倒壊等氾濫想定区域・浸水想定区域



出典：高知市洪水ハザードマップ
令和元年10月29日公表

Check! 家屋倒壊等氾濫想定区域・洪水浸水想定区域の違いとは？

❖ 家屋倒壊氾濫想定区域とは

洪水時に家屋が流出・倒壊等のおそれがある範囲のことを指します。家屋倒壊氾濫想定区域には河川堤防の決壊もしくは洪水の氾濫流により木造家屋の倒壊が生じる恐れのある【洪水氾濫】と、河岸侵食によりすべての建物に倒壊の恐れが生じる【河岸侵食】の2種類があります。洪水時における水平避難が必要な区域・垂直避難が可能な区域の判断などに有効な情報となります。

❖ 洪水浸水想定区域とは

想定しうる最大規模の降雨により河川が氾濫した場合に、浸水が想定される区域を指します。上のような図に示すことで洪水時の円滑かつ迅速な避難を確保し、被害の軽減を図ることが重要です。浸水想定の高さに応じて垂直避難（2階への避難の可否）の可能な区域の判断などに有効な情報となります。家屋倒壊氾濫想定区域は、洪水浸水想定区域の中で家屋倒壊の可能性のある範囲を指定しています。

これまでの主な洪水と被災状況

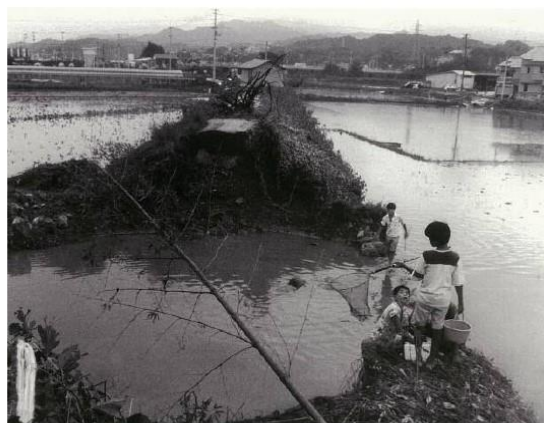
鏡川流域は県下でも有数の多雨地帯であり、下流域の多くが低平地で、内水・高潮による氾濫を起こしやすく、河川能力不足と相まって、これまで度々大規模な浸水被害を受けてきました。

【鏡川水系 浸水被害状況】

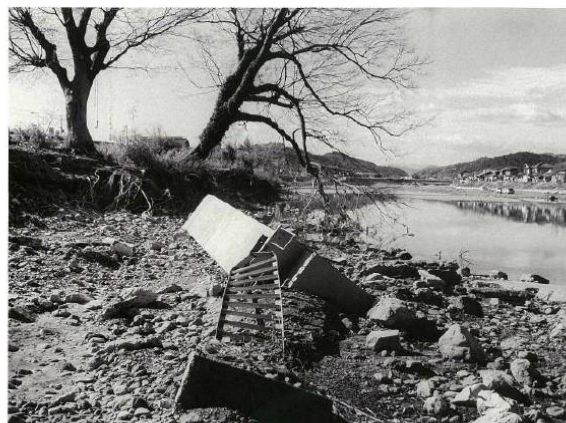
時期	概要	被害状況						
		浸水面積 (ha)	日最大雨量 (高知)	床下浸水戸数 (棟)	床上浸水戸数 (棟)	半壊 (棟)	全壊流失 (棟)	一般資産等被害 (千円)
昭和45年 8.13-8.23	台風第9・10号及び集中豪雨により 吉野川・排水路で「内水・溢水」が発生	71,1	176,5	227				31.599
昭和50年 8.5-8.25	豪雨及び暴風雨により、鏡川・他4河川 他2地区で「内水・溢水・土石流」が発生	284,2	294,5	4,337	3,585	5	16	8.002.888
昭和51年 9.7-9.14	台風第17号及び豪雨により、鏡川・他6河川 他7地区で「内水・浸水・土石流」が発生	1675,6	524,5	11,496	8,449	9	41	16.822.300
平成26年 7.29-8.12	台風第11・12号及び豪雨により 鏡川・他2河川で「内水」が発生	2,5	372	1				29.826

出典：水害統計

台風・豪雨災害による洪水の被害



鴨部地区青果市場付近(堤防決壊の状況)



鏡川橋上流(洪水後の状況)

【昭和 51 年 9 月洪水による被災状況】

出典：「鏡川 寺田正写真集」（昭和 62 年 6 月 寺田正写真集刊行会）

▶昭和51年9月の台風17号では県中部や東部を中心に大雨となり、鏡川では鴨部地区の堤防が決壊したこと等により、前年の台風5号を上回る大規模な浸水被害が発生した。

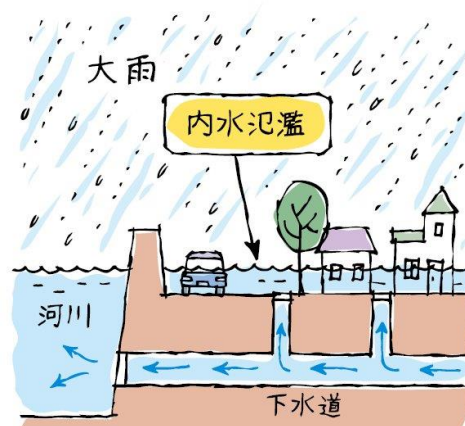
Check! 内水氾濫とは？

下水道等の排水施設的能力を超えた雨が降った時や、雨水の排水先の河川の水位が高くなった時などに、**雨水が排水できなくなり町が浸水する現象のことです。**

内水氾濫が起こりやすい場所は・・・

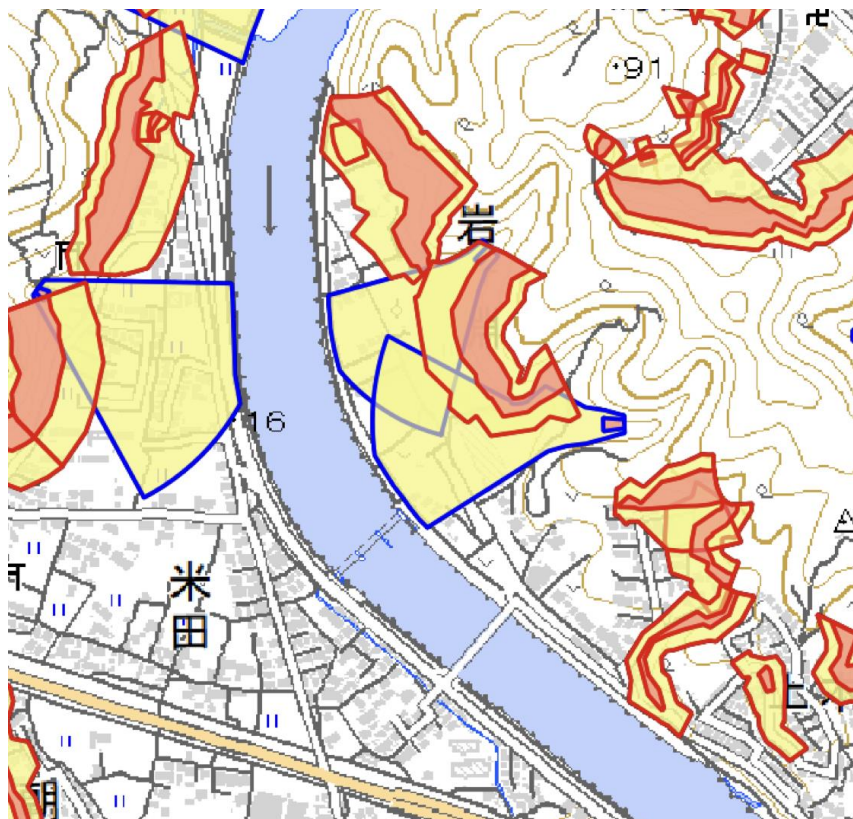
- ❖ 谷や窪地等、周辺と比べて標高が低い場所
- ❖ 下水道の排水能力が低い場所
- ❖ 下水道や水路が大きな川に流れ込む水門等の周辺

内水氾濫が起こると避難の妨げになる可能性が充分にあります。もう一度避難経路を確認しておきましょう。



土砂災害

岩ヶ淵地区では東側の山の影響により、**広範囲に「土石流警戒区域」・「急傾斜地警戒区域」に指定されています。** 今後は危険性や対策について専門家による調査が必要と考えています。

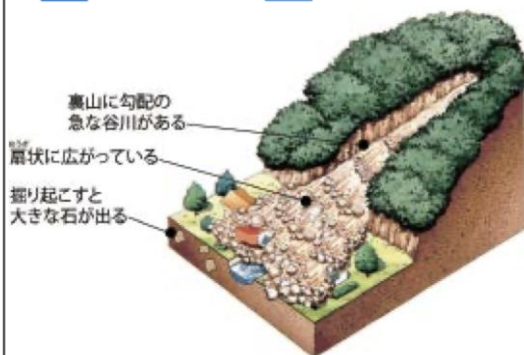


【土石流警戒区域】

集中豪雨などで崩れ落ちた山腹の岩や土砂の一部が川底の石などと一緒に下流へ押し流される現象です。流速20~40km/hで一瞬のうちに人家などを壊滅させてしまいます。

岩ヶ淵地区では田園エリアの背後の谷筋に指定されています。

■ 警戒区域 ■ 特別警戒区域



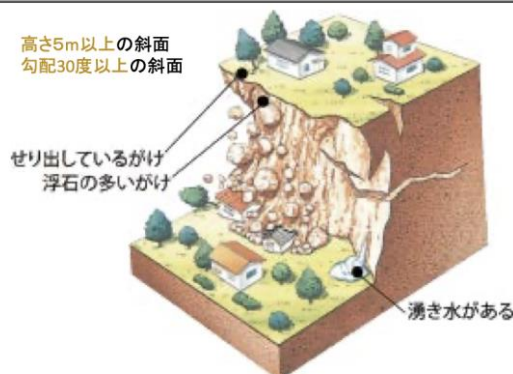
高知市土砂災害ハザードマップ (<https://www.city.kochi.kochi.jp/uploaded/attachment/142677.pdf>)

【急傾斜地警戒区域】

雨や地震などの影響によって土の抵抗力が弱まり、急激に斜面が崩れ落ちる現象です。住家の裏山で突然起こると逃げ遅れる人も多く、人的被害の割合も高くなります。

岩ヶ淵地区では田園エリア・住宅地エリアの山際に指定されています。

■ 警戒区域 ■ 特別警戒区域



Check! こんな前触れには要注意！

【土石流警戒区域】

- ❖ 雨が降り続けているのに川の水位が下がる
- ❖ 地鳴りの音が聞こえてくる
- ❖ 川が濁ったり、流木が混じり始める

【急傾斜地警戒区域】

- ❖ 斜面にひび割れができる
- ❖ 湧水の量が増える
- ❖ 崖に亀裂が入る
- ❖ 崖から小石が落ちてくる



出典：高知県土木部防災砂防課

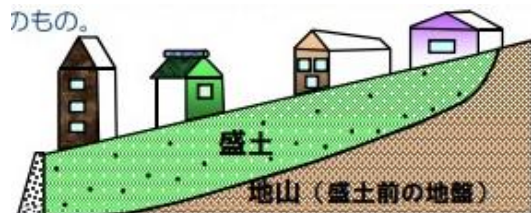
知っててよかった！！必読あなたの大切なものを土砂災害から守るために

大規模盛土造成地

岩ヶ淵地区の南東に位置する岩ヶ淵団地（住宅地工リア）は谷を埋め立てた造成地が含まれるため、盛り土の全体または大部分が流動・変動する滑動崩落のリスクがあります。

【谷埋め盛土】

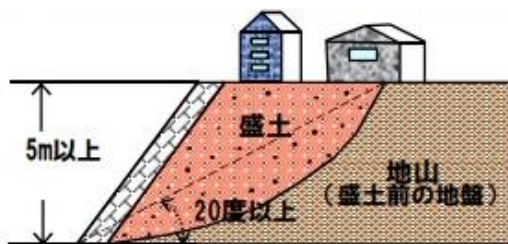
谷を埋め立てた造成地で、盛り土の面積が3,000m²以上のもの。



（出典：大規模盛土造成地の変動予測調査ガイドラインの解説）

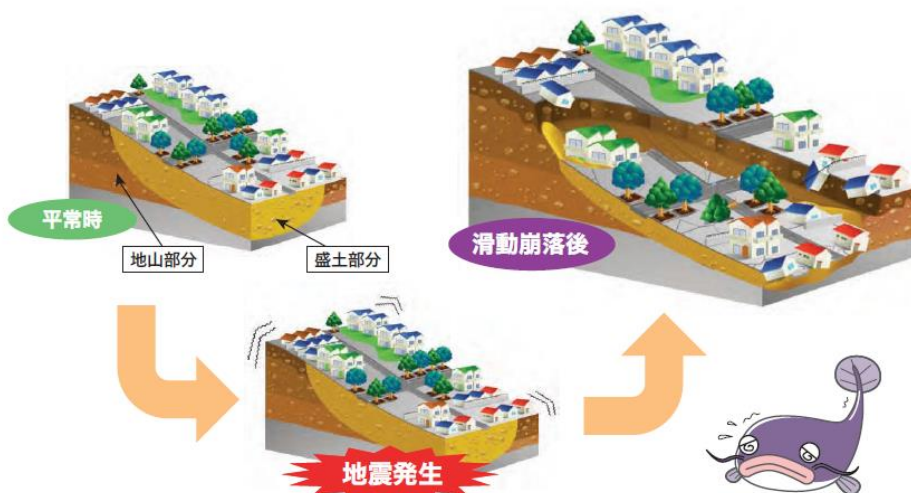
【腹付け盛土】

傾斜地に盛土をした造成宅地で、地山（盛り土前の地盤）の傾斜が20度以上、かつ盛り土の高さが5m以上のもの。



滑動崩落とは

地震時に盛土造成地において、盛り土全体または大部分が盛土底面部を滑り面として旧地形に沿って流動、変動または斜面方向へ移動することです。



（出典：安全・安心なまちづくりのために一宅地耐震化の取組についてー国土交通省 都市・地域整備局）

火災

岩ヶ淵地区は家が密集して建つ地区ではないため、防火的な規制はありませんが、木造家屋が多く、火災発生時の延焼による火災拡大には注意が必要です。

第3節 緊急時の避難について

近くの避難場所及び避難所

岩ヶ淵地区を含む旭街及び近隣の朝倉地区に位置する避難場所・避難所として、下記の施設があります。近い施設には「朝倉ふれあいセンター」「高知特別支援学校」「高知商業高等学校」「旭小学校」などがありますが、いずれも岩ヶ淵地区から1,5kmほどの距離があり、歩いて向かうと健康な人でも20分はかかります。夜間やすでに雨が降り始めてからではより時間がかかることが想定されます。状況に応じた避難のタイミングや避難先を事前に検討しておきましょう。

指定緊急避難場所一覧

○:避難可 ×:避難不可 -:対象区域外 (- m):想定浸水深

令和6年3月31日現在

大街	番号	施設名称	所在地	洪水	備考	土砂災害	備考	津波	備考
					※()内は想定浸水深				※()内は想定浸水深
旭街	24	木村会館	旭町3丁目121	○	(0.5-3.0m) 洪水避難場所:建物2階以上	○		-	(津波浸水想定区域外)
	25	旭小学校	本宮町15	○	(0.5-3.0m) 洪水避難場所:建物2階以上	○		-	(津波浸水想定区域外)
	26	高知特別支援学校	本宮町125	○	(0.5m未満)	○		-	(津波浸水想定区域外)
	27	高知商業高等学校	大谷6	○		×	土砂災害特別警戒区域(急傾斜) 土砂災害警戒区域(急傾斜, 土石流)	-	(津波浸水想定区域外)
	28	旭東小学校	北端町50	○	(0.5-3.0m) 洪水避難場所:建物2階以上	○		-	(津波浸水想定区域外)
	29	横内小学校	横内242-12	○		×	土砂災害警戒区域(急傾斜)	-	(津波浸水想定区域外)
	30	旭中学校	口細山164-1	○		×	土砂災害特別警戒区域(急傾斜) 土砂災害警戒区域(急傾斜)	-	(津波浸水想定区域外)
	31	福寿園	福井町748	○		×	土砂災害特別警戒区域(急傾斜) 土砂災害警戒区域(急傾斜)	-	(津波浸水想定区域外)
朝倉	78	行川学園	行川472	○		×	土砂災害特別警戒区域(急傾斜) 土砂災害警戒区域(急傾斜, 土石流)	-	(津波浸水想定区域外)
	79	朝倉ふれあいセンター	曙町1丁目14-12	○	(0.5-3.0m) 洪水避難場所:建物2階以上	○		-	(津波浸水想定区域外)
	80	朝倉小学校	朝倉本町2丁目11-20	○	(0.5-3.0m) 洪水避難場所:建物2階以上	○		-	(津波浸水想定区域外)
	81	朝倉第二小学校	若草南町23-56	○	(0.5-3.0m) 洪水避難場所:建物2階以上	○		-	(津波浸水想定区域外)
	82	朝倉市民会館	朝倉東町24-33	○	(0.5-3.0m) 洪水避難場所:建物2階以上	○		-	(津波浸水想定区域外)

指定避難所一覧 (一部抜粋)

令和5年11月1日時点

大街	番号	名称	住所	避難 箇所面積	避難 可能人数 2㎡/人	避難 可能人数 4㎡/人	大規模災 害時のみ 開設
旭街	49	高知北高等学校 (校舎)	東石立町160	1,620	810	405	○
		高知北高等学校 (体育館)	東石立町160	904	452	226	○
	50	こうち男女共同参画センター「ソーレ」	旭町3丁目115	1,247	619	309	○
	51	木村会館	旭町3丁目121	606	301	150	
	52	旭小学校 (校舎)	本宮町15	2,427	1,212	606	
		旭小学校 (体育館)	本宮町15	801	400	200	
	53	旭小学校放課後児童クラブ (第一・第二)	本宮町15	164	81	40	○
	54	高知特別支援学校 (体育館)	本宮町125	687	343	171	
	55	高知商業高等学校 (校舎)	大谷6	5,321	2,660	1,330	
		高知商業高等学校 (体育館)	大谷6	3,131	1,564	782	

出典: <https://www.city.kochi.kochi.jp/uploaded/attachment/144597.pdf>
<https://www.city.kochi.kochi.jp/uploaded/attachment/137910.pdf>

Check! 避難場所と避難所の違いを知っておこう!

- 【避難場所】** 災害から身を守るために緊急的に避難する場所を指します。災害種別ごとに指定され、河川敷や高台、高速道路上などが指定されます。
- 【避難所】** 災害による被害を受けた人または受ける可能性のある人が、一定の期間避難生活をする場所のことを指します。一定の広さと被災後の生活再建の拠点となるための建物を持ち合わせた施設であることが求められ、公民館や学校などの公共施設などが指定されていることが多いです。

第3節 緊急時の避難について

災害時における岩ヶ淵地区の避難経路について

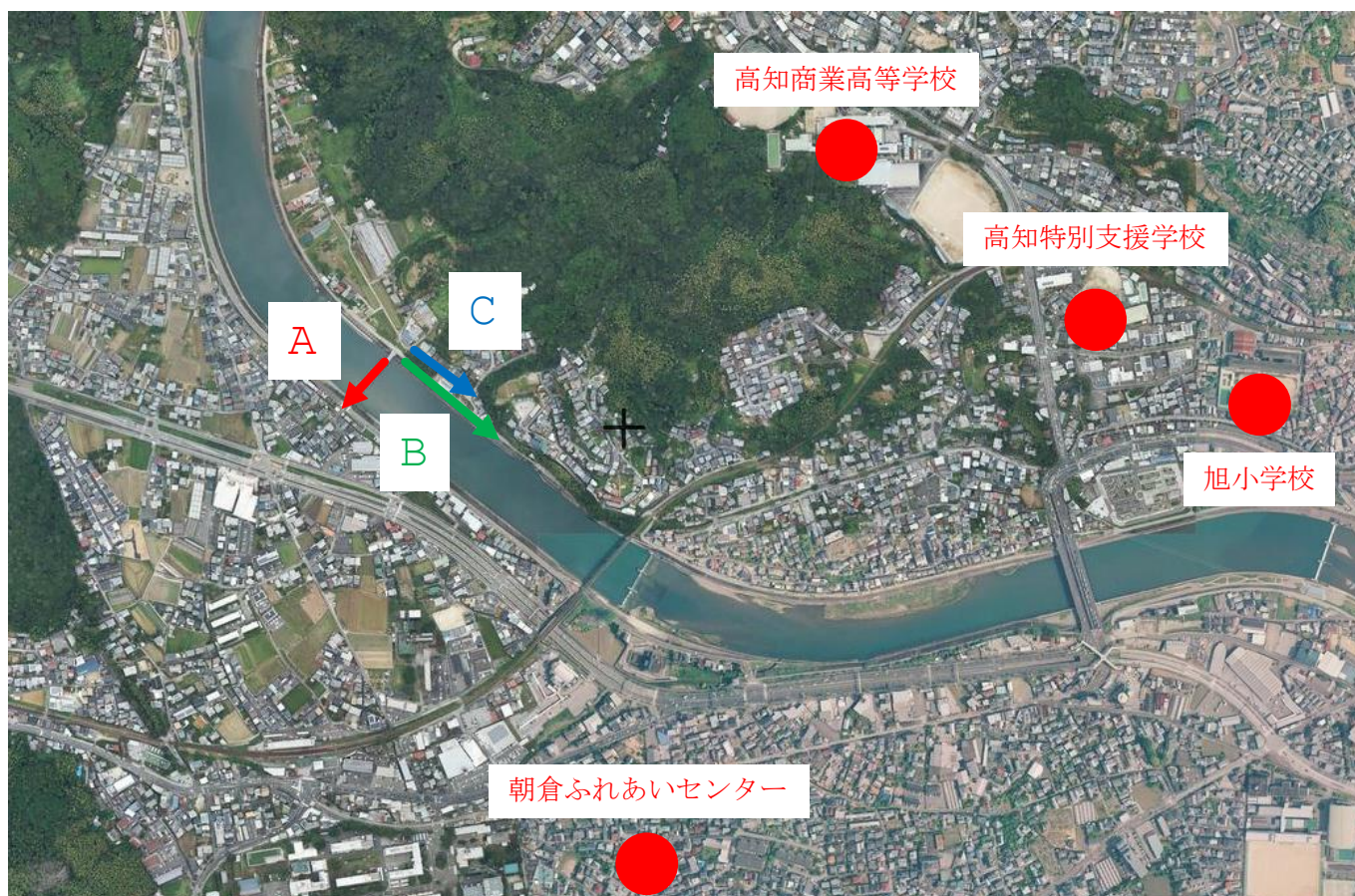
岩ヶ淵地区から近隣の避難場所へ向かうルートには、以下の3つの経路が考えられます。

A：米田橋を渡るルート

B：鏡川沿いの道（旭街26号線）を通るルート

C：上本宮町に向かう道（旭街31号線）を通るルート

しかし、これらのルートにはそれぞれ災害時の状況に対する懸念事項がありますので、確認しておきましょう。



A：米田橋を渡るルート



出典：GoogleMapに加筆

米田橋経由の場合、米田橋の安全性については大規模地震時に落橋しない対策は実施済みですが、耐震対策については実施できていないため路面に段差が生じる可能性があります。

米田橋に関する高知市道路整備課の回答：米田橋は昭和56年3月完成、平成10年に耐震補強（※落橋対策）実施済みである。平成28年に高欄及び伸縮装置の補修工事を実施。5年に1度の定期点検を実施しており、直近では令和6年に実施済み。落橋対策は完了しているが、大規模地震時に路面に段差等が生じるなど、通行に支障が生じる可能性がある。なお、耐震補強工事（※耐震対策）については、現在、緊急輸送道路から優先的に実施している状況である。

B：鏡川沿いの道（旭街26号線）を通るルート



出典：GoogleMapに加筆

鏡川沿いの道路（市道旭街26号線）を通るルートの場合、高架下を通行するため、鏡川に一定以上の増水が発生すると水没の可能性があるので、全面通行止めとなります。

そのため、災害時には通行不可となる可能性が高い経路です。浸水対策について、専門家による調査が必要と考えています。

C：上本宮町に向かう道（旭街31号線）を通るルート

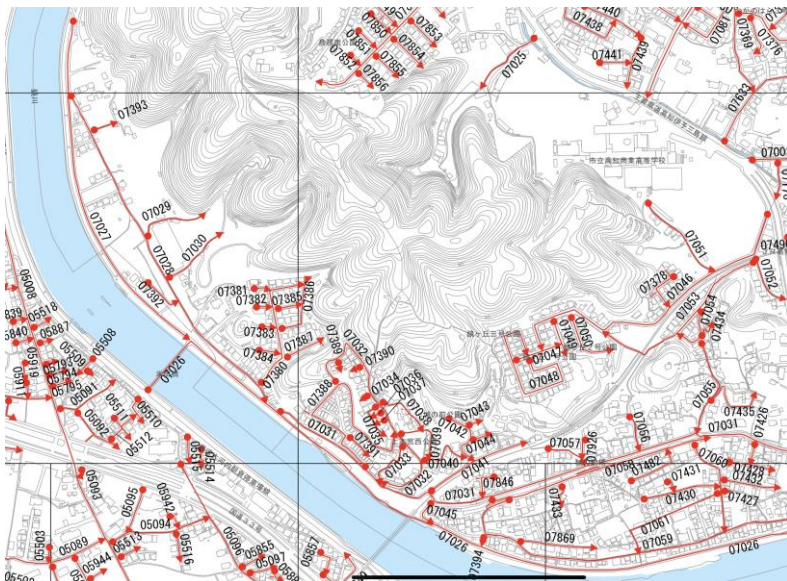


出典：GoogleMapに加筆

上本宮町に向かう道（市道旭街31号線）を通るルートの場合、北側に高い擁壁が迫り、南側は表面が舗装されていない竹藪となっています。

北側は腹付け盛土を急勾配のコンクリートで土留をした擁壁であり、造成時期は現時点では不明であるため、滑動崩落のリスクがあります。また、南側の法面の災害時安全性も不明であり、今後、専門家による調査が必要と考えています。

Check! 道路の維持管理について知っておこう!



高知市認定路線網図

(<https://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/45/rosenmouzur2.html>)

左に示した図は高知市が市道として認定している道路の図です。朱線部分が高知市道です。丸は始点、矢印は終点を示します。上2桁番号07が旭街を示し、下3桁が号線番号となります。

また、避難経路となる道路周辺の管理担当区分を確認しました。

- ・ 鏡川護岸（側面堤防）及び法面は高知県の維持管理担当。
 - ・ 高知市道の表面管理及び米田橋は高知市の維持管理担当。
- 今後の防災対策には県や市との協体制が重要となります。

第2章 岩ヶ淵地区の課題

第1章の岩ヶ淵地区の特性や災害リスクの整理からつぎのような課題が見えてきました。

地震

- 地区全体が震度6強と予測されている
- 家具の転倒対策ができていない世帯が半数以上を占めている
- 耐震補強の有無が不明であるため地震時の建物倒壊及び道路閉塞の危険性がある

土砂災害

- 広範囲が土砂災害警戒区域・急傾斜地警戒区域に指定されている
- 岩ヶ淵地区の南東にある岩ヶ淵団地は谷埋め盛土があるため滑落崩落のリスクがある

風水害

- 田園工リアのほとんどが「洪水浸水想定区域」「家屋倒壊等氾濫想定区域」に指定されている
- 田園工リアは、浸水・洪水氾濫・河岸浸食の恐れがあるため避難経路が断たれる可能性がある
- 鏡川水位上昇による内水氾濫のおそれあり



出典：いらすとや
(https://www.irasutoya.com/2012/11/blog-post_2.html)

避難

- 地区内に避難場所・避難所がない
- 避難経路が災害時に通行止めになるリスクがある
- 安全な避難経路がないために災害時に孤立する恐れがある

住民間の課題

- 現役世代と高齢者で情報収集に差がある
- 防災に対する意識や理解度、共通認識に違いがみられる
- 地域内でのコミュニティの希薄化
世代を越えた交流が薄い

要配慮者

- 自力で避難できない要配慮者の方が多いが、高齢者の割合が高いため助け合いも困難
- 地区内に病院がない

災害対策

- 家の家具転倒対策が不十分
- 家の耐震化が出来ていない
- 災害用備蓄や非常用持ち出し袋の準備が不十分

第3章 岩ヶ淵地区で進める防災対策

第1節 防災の基本的な考え方

「**自分の命は自分で守る**」これが防災の基本です。

想定外の災害も多発しており、これをやれば絶対に大丈夫ということはありません。

まずは、何よりも災害から**自分の身を守ることを最優先**にしてください。

災害発生時は道路寸断や多数の怪我人が出ることが予測されます。

過去の災害からもわかるように、災害直後の救助活動は非常に厳しいのが現実です。

地区内で助け合える関係性を構築し、実情に応じたの事前対策がとても重要となります。

第2節 災害対策に向けた活動の役割分担

災害対策は住民だけでは限界があります。行政だけでも限界があります。それぞれが自分の役割を理解し、できることから取り組むことが重要です。

1. 役割分担 **自助・共助・公助**による役割の明確化

自助とは…自分や家族、ひとりひとりが自ら防災に取り組むこと。

日常的な災害に対する備えや、災害時の対応を考えます。

共助とは…地域やコミュニティといった身近にいる人たちで協力して助け合うこと。

公助とは…国や市町村、地方公共団体などの公的機関が取り組むこと。

2. 情報提供 行政・住民に対して地区の特性・防災情報の提供

3. 防災訓練 住民同士が助け合える関係性の構築支援

4. 行政との連携 課題の集約、地区防災計画素案作成

第3節 ひとりひとりが自ら取り組むこと（自助）

岩ヶ淵地区に住むひとりひとりが取り組むべきことをまとめました。できていることにはチェックを入れ、今年中できること、数年以内にできること、周りの助けが必要なことなど、実行のために必要なことを考えてみましょう。

家で出来る身の回りのこと

- **ハザードマップ**で自宅周辺の災害リスクを確認しておく。
- 家族と災害時の「**避難所・避難場所・避難経路・連絡方法・集合場所**」や役割分担を確認し共有する。家族構成や生活環境の変化に応じて、その都度計画を更新していく。
- 自動車の燃料を半分以下にしないようにする。
- 寝室には靴と懐中電灯を用意しておく。
- **非常用持ち出し袋**を準備、定期的に内容を確認・更新する。
- 最低3日分（できれば1週間分）の食料と水を備蓄・賞味期限を確認し必要に応じて交換する。

住宅の安全対策

- 自宅の**耐震診断**を受ける
（必要に応じて耐震補強を実施）
- ブロック塀や門柱の安全性を確認
（必要に応じて改修を実施）
- **家具や大型家電の固定**をする
- 窓ガラスに飛散防止フィルムを貼る

特別な配慮が必要な方

- 乳幼児（粉ミルク、おむつ等）を備蓄しておく
- 高齢者や避難行動要支援者の必要物資を準備しておく
- ペット用の避難用品と餌を用意しておく

情報収集の手段

- 携帯電話の緊急速報メールを設定する
- 高知県防災アプリを活用する
- **災害用伝言ダイヤル（171）**の使い方を家族で確認する

スキルアップ

- 消火器の設置場所の把握や使い方を訓練しておく
- 応急手当や心肺蘇生法の講習を受ける
- 家族で防災訓練に参加する
- 地区防災マップ作成に参加する

非常用持ち出し袋（避難の際に持ち出すもの）

必需品

- | | |
|---|--|
| ☐ 水 | ☐ ブランケット |
| ☐ 食品
(アルファ米、レトルト食品、乾パン等
：最低3日分の用意) | ☐ 軍手 |
| ☐ 防災用ヘルメット・防災ずきん | ☐ 洗面用具 |
| ☐ 衣類・下着 | ☐ 歯ブラシ・歯磨き粉 |
| ☐ レインウェア | ☐ タオル |
| ☐ 紐なしズック靴 | ☐ ペン・ノート |
| ☐ 懐中電灯(手動電動式がおすすめ) | ☐ マスク |
| ☐ 携帯ラジオ(手動電動式がおすすめ) | ☐ 手指消毒用アルコール |
| ☐ 予備電池・携帯充電器 | ☐ 石けん・ハンドソープ |
| ☐ マッチ・ろうそく | ☐ ウェットティッシュ |
| ☐ 救急用品
(絆創膏・包帯・消毒液・常備薬等) | ☐ 体温計 |
| ☐ 使い捨てカイロ | ☐ 貴重品
(通帳・現金・パスポート・運転免許証
病院の診察券・マイナンバーカード等) |

お子様がいる家庭

- | | | |
|---------------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|
| ☐ ミルク(キューブタイプ) | ☐ 子供用紙おむつ | ☐ ネックライト |
| ☐ 使い捨て哺乳瓶 | ☐ お尻ふき | ☐ 抱っこひも |
| ☐ 離乳食 | ☐ 携帯用お尻洗浄機 | ☐ 子供の靴 |
| ☐ 携帯カトラリー | | |

女性

- | | | |
|----------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------|
| ☐ おりものシート | ☐ サニタリーショーツ | ☐ 防犯ブザー |
| ☐ 生理用品 | ☐ 中身の见えないゴミ袋 | |

高齢者がいる家庭

- | | | |
|----------------------------------|----------------------------------|---------------------------------------|
| ☐ 大人用紙パンツ | ☐ 介護食 | ☐ デリケートゾーンの洗浄剤 |
| ☐ 杖 | ☐ 入れ歯・洗浄剤 | ☐ 持病の薬 |
| ☐ 補聴器 | ☐ 吸水パッド | ☐ お薬手帳のコピー |

備蓄品（家に備えておくもの）

- ☐ 食料や水（最低3日分、できれば一週間分）× 家族分
保存期間の長いものを多めに買って置き、消費したら補完していく
- ☐ 生活用品
ティッシュやトイレットペーパー、ラップ、ゴミ袋、ポリタンク、携帯用トイレ等

参考文献：災害の「備え」チェックリスト, 首相官邸ホームページ, <https://www.kantei.go.jp/jp/content/000111250.pdf>

第4節 地域や身近にいる人どうしが一緒に取り組むこと（共助）

現在、岩ヶ淵地区で継続的に行っている取り組みには以下のものがあります。

避難行動要支援者対策

- ❑ 高知市提供の避難行動要支援者リストの共有
- ❑ 避難行動要支援者の個別避難計画作成を支援する

訓練・教育

- ❑ 定期的な防災訓練を実施する

資機材・備蓄

- ❑ 防災倉庫や防災資機材の保管場所を周知する
- ❑ 必要な防災資機材（担架・チェーンソー等）を備え、定期的に点検を行う

これらの取り組みに加え、今後新たに岩ヶ淵地区で取り組んでいくべきことをまとめていきます。

組織体制の構築

- ❑ 災害発生時の役割分担を決める（情報班、避難誘導班、救護班等）
- ❑ 近隣自治会・町内会との協力体制を作る
- ❑ 学校や福祉施設等、関係機関との連携体制を構築する

計画の策定

- ❑ 孤立を想定した備蓄計画を策定
- ❑ 地区防災マップを作成し全世帯に配布する
- ❑ 定期的に地区防災計画を見直し、必要に応じて修正する
- ❑ 地区防災計画の成果を評価する仕組み
- ❑ 住民の意見を集約し、活動に反映させる機会を作る

避難行動要支援者対策

- ❑ 避難行動要支援者の個別避難計画作成支援
- ❑ 老老介護世帯、高齢者のみ世帯への避難勧告・指示基準を明確化

情報収集・伝達

- ❑ 災害発生時の情報収集・伝達の手順を決める
- ❑ 素早い情報伝達の仕組みを作る

第5節 岩ヶ淵地区で活用できる事業（公助）

防災活動の支援（補助金）

- ❑ 防災学習・防災啓発・防災訓練・危険箇所の調査・地域での情報共有、防災資機材の購入、役員会の開催、運営等を実施する際に活用できる補助金。

担い手支援事業

- ❑ 防災活動の担い手が不足する地域へ大学生を派遣し、訓練や防災関連のイベントといった防災活動の企画や運営補助を行うもの。

これまでの活動から見えてきた課題もたくさんあります。その課題の解決に向け、岩ヶ淵地区に住む私たち一人ひとりが考え、対策をしていかなければいけません。しかし、私たちだけでは解決できない課題もあります。私たちだけではなく、岩ヶ淵地区と高知市が連携し、地区の防災力を高めていける活動をしていきましょう。

終章 さいごに

独立行政法人 国立高等専門学校機構
高知工業高等専門学校 北山研究室 (岩ヶ淵地区防災計画素案作成・防災活動全般)

高知県
危機管理部 南海トラフ地震対策課 (防災学習会)
土木部 河川課・防災砂防課・高知県土木事務所鏡ダム管理事務所 (防災学習会)
警察本部 高知警察署 警備部 警備係 (防災訓練)

高知市
防災対策部 地域防災推進課 (岩ヶ淵地区防災計画素案作成・防災活動全般)
総務部 広聴広報課 (防災学習会)
市民協働部 地域コミュニティ推進課 (防災活動)
都市建設部 道路管理課・道路整備課 (道路整備)
消防局 北消防署旭出張所 (防災訓練)
農林水産部 耕地課 (水路整備)
環境部 廃棄物対策課 (廃棄物処理関連)

社会福祉法人 高知市社会福祉協議会 地域協働課 (防災活動全般)
高知市旭街地域包括支援センター (防災活動全般)

高知大学
地域協働学部 コミュニティ防災・地域再生 大槻研究室 (防災訓練)
防災すけっと隊 (防災活動)

上本宮町山手町内会・自主防災会 (防災活動)

こうち減災女子部 (防災訓練)

防災活動及び岩ヶ淵地区防災計画素案作成にあたり多くの住民の皆様、各
ご担当者様に、ご支援及びご協力を頂きました。心より感謝申し上げます。

岩ヶ淵自主防災会

